

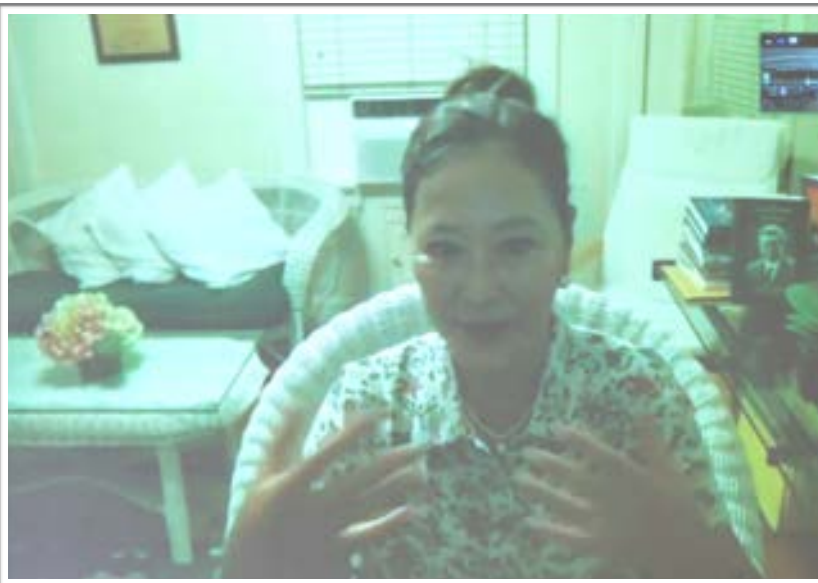
J. PIAGET



Geant de la psychologie du xxe siècle ,fondateur de l'épistémologie génétique

7月25日～26日 Summer Seminar 2018

第22回夏季研修会 会報誌 主催：日本ピアジェ会 後援：株式会社メイト



『思いやりと批判的思考』

齋藤 法子・・・・・・・・・・ P3

ペタペタシール遊び実践発表について
助言者 大石 富士子・・・・・・・・ P6

べたべたシールあそび実践発表・・・・・・ P7-10

師勝はなの樹幼稚園・遊々こども園
東山東幼稚園・鴻池学園幼稚園

文学紀行NO.34

石川 晴子・・・・・・ P11

思いやりと批判的思考

カリフォルニア州立大学院
名誉教授 齋藤 法子

今回の講演は思いやりと批判的思考についての内容となります。乳幼児の時期は実に多くのことを遊びや周囲との関わりによって批判的思考を学んでいきます。批判的とは相手を評価する時に使用する言葉でマイナスのイメージがありますが、物事をより深く認識する前向きな意味合いとなります。実際に詳しくみていきましょう。

思いやり（共感）と同情の違い

英語で共感をempathy、同情はsympathy、と呼ばれ、似て非なるものです。同情とは他人の苦難に対して、悲しみ、同情を察することを指します。例えば交通事故に遭い、歩行困難な身障者をみたとき、「かわいそう・彼の人生は苦難だ」と上辺だけで察する気持ちを指します。しかし実際は、困難に立ち向かっていることを苦難だと思っていないこともあり、一方的にその人を判断することになります。



他方の思いやり（共感）とは、アメリカの諺で「place oneself in another's shoes」

と呼ばれ、直訳すると他人の靴を履いてみる経験です。他人の靴を履いてという比喻を使って、他人が経験していることを理解することを意味します。思いやりは、相手の気持ちに触れ、批判なくすべての感情を受け入れ認めてあげてあげてあげること、それを指します。それゆえ相手を理解しようと言葉を聞いてあげ、相手の細かな言動を察知することができるのです。例えば笑顔の裏には悲しみがある等を相手の表情や雰囲気から敏感に感じることが出来ます。同情では、相手の気持ちを察し、それについて、批判が多く、時に頼まれていないアドバイスをしたりするものです。ピアジェ理論の言葉で表現すると、思いやりは、他の気持ちを感じ取る自律的な行為で、同情は一方的に判断する自己中心的な行為といえるで

でしょう。

批判的思考

Critical Thinkingはそのまま訳すと批判的思考となります。批判的とは、左記の記述通りマイナスのイメージに捉えられることが多いですが、実際のCritical Thinkingはとても前向きな表現となります。それは自らがこれまで培った情報を現状に適應して、問題を分析・評価し理解していく思考で自律的な思考とも言えます。自律的に考えることは、内面的な思考（Reflective Abstraction）が必要となり、創造的な思考で情報を解釈し問題解決する能力とも言えます。前述した相手の気持ちを感じ、相手の想いを敏感に感じとる思いやり（共感）には、この批判的思考の能力が必要です。

批判的思考とは、自身を振り返ることができる能力、自分の行動を反省する能力、ピアジェ博士のいう同化・調節・均衡の能力です。自分の視点（経験）から比較して考えることは同化する能力といえます。他の視点（経験）から見る努力は、「もし自分が同じ立場におかれたら？」と考える調節の能力といえます。同化・調節により他の視点を理解し、均衡によって相手の気持ちや苦勞を理解して感じとっていくのです。



自分の視点と比べる



他の視点から見る努力



他の視点を理解する

ピアジェ理論と批判的思考

ピアジェ理論の道徳の発達を見てみましょう。最初自己中心性 (Egocentric)を持っている、わがまま、自分勝手な段階から徐々に脱却し、他人の立場で考えることが芽生えていきます。次の段階として、法律や規則を重視し、思考することなく服従したり、両親や先生の前で良い子どもであることを見せようとする服従性 (Obedience)の段階となります。最後は、自律性 (Autonomy)の段階では自己の価値観を抱き、他人を尊敬し、相手の立場にたって共感できる段階へと移行していきます。これは年齢と共に発達するものではなく、他との関わりの中で培われていくものです。

故に、最初から自分で内面的に考えるのではなく、大人を模倣して理由の有無に関わらず命令に服従し、良い行いをしようとする段階から、徐々に内面的 (内省的抽象化) に考え、状況を分析、評価し、批判的思考によって相手の立場にたてるように発達していくのです。ピアジェの構築主義 (Constructivism)とは、れんがで家を建てるように構築していくことで発達していきますが、道徳観の発達も同様の段階を経て発達していくのです。

思いやりは学べる

さて、今まで説明してきた思いやり (共感) ですが、一体どのようにすれば形成していくのでしょうか。これは決して年齢が上がったから自然と発達するものではないのです。

家庭環境で、大人が思いやりの行動を示すことは、子どもに思いやりを感じる模範となるでしょう。また自己中心から離れた、他の立場にたって考える機会を与えることも道徳観で良い効果を生みます。また、ボランティア精神を奨励する機会を与えることも有効といえます。

要は家庭環境の雰囲気がか子どもの道徳観を形成していくといえるでしょう。例えば、家庭で犬や猫のペットを可愛がる動物を愛護する姿を見せると、子どもには良い手本となるはずで、子どもが苦痛を感じている時に、優しく声をかけてあげ、あやすことも安心感の支援になります。

子どもは親や周囲の大人から愛情を受けることにより、自分をなだめる方法を学んでいきます。言い換えると、子どもが大人から言葉を学ぶように、大人が子を癒すことによって、子は自分や他人を慰めることを学んでいきます。



大人と子どもの相互作用によって、子は愛情を知ります。強い愛情を感じるこのつながりは情緒発達に重要な要素となっていきます。

両親が子どもにしている思いやりは、集団生活で、子どもが他の子へする行動の原版となり、類似した行動をするようになります。学校生活でいえば、保育士が泣いている子を優しく慰めてあげる行動をすると、それを見ていた周囲の子どもはその一連の行動を原版として模倣していき、次に泣いている子を見た時に同じ行動をするようになります。自己中心性からこの周囲の思いやりの行動を模倣することにより、相手の気持ちを労わり、思いやりの心を育むようになるのです。



共感



遊びの重要性

さて、遊びの重要性は以前にもお伝えしました。遊びを通して認知・情緒・言語・身体が発達していきます。遊びには正しい方法や間違った方法がなく、大人からの圧力がなく、楽しく学ぶことができます。実に多くの認識を子どもは遊び場から学んでいきます。幼少期の発達には遊びから深まっていくといっても過言ではありません。

ピアジェ博士によると遊びには認識により発達する過程があります。生後間も無く吸引反射を繰り返す本能による遊びから始まります。やがて身体活動での遊びになり、物の永続性を認識できるようになるといないないバーの遊びを喜ぶようになります。さらに道具を使っての遊びへと発展していき、ブロックを車に見立てる抽象的な遊

び、ごっこ遊びへと発展していきます。今回は特に情緒の発達についての内容なので、遊びを通して思いやり（共感）を育む保育実践を紹介していきます。

思いやり（共感）を学ぶ保育実践

遊びから学ぶ思いやりを育む過程を保育実践を通してみていきましょう。まず、自己概念をもつ、自分を知ることから始まります。次に所属しているグループアイデンティティを持つようになります。日本であれば日本人としての文化を知るようになります。自分のアイデンティティを持つようになると、今度は多文化教育、他の文化との類似点・相違点を比較できるように環境を整えていきます。教育の目標は、子どもが他と比較して劣等感または優位感を持たないように、皆共通した人間と感じさせるように導くことだといえます。



さて、感覚運動期（0歳～2歳）の子どもは鏡をみて意識して自分を見るようになる遊びがはじまります。自己概念の始まりとって良いでしょう。さらに幼稚園になると、保育室

で誕生日のリストを掲示してあげ、その月に祝ってあげることも効果的です。また、ファミリー・ツリーをそれぞれの子どもが作り、自分の両親、そのまた両親と自分の家族の認識を深めていくことに役立ちます。加えて、家族にも色々な形があることを掲示しておきます。児童養護施設に居住している、祖父母と一緒に住んでいる、同性愛の両親、片親の家族と、家族の形も様々あることを理解できるように環境を整えておくのです。身近なことから始めてやがては自分の国についての認識を深め、次に他国の人との共通点・相違点を知り、共通認識を深めていきます。

①文化の違いを知る。

・メルチングポットアプローチ

さて、多文化教育をする上でのアプローチの仕方を見てみましょう。メルチングポットアプローチとは、例えば、カレーの中に具材を入れれば、皆同じ色、同じ香りになります。日本に来たならば、日本の文化に習い、同じ文化を押し付けることを指します。しかしこのアプローチでは、自分の文化を押し付け、優位性を強調することになります。

また、他文化に観光等で触れた時には、その文化の表面上な箇所しか理解できません。表面上で判断していくことは、他文化に対してステレオタイプな先入観を持つ危険性があります。

・サラダボールアプローチ

一方のサラダボールアプローチでは、一人一人の子どもの違いを相互尊敬するアプローチです。サラダボールに入っている野菜は、一つ一つが異なる風味があります。自国文化を押し付けるのではなく、それぞれの個性を大切にすることからこのような呼び方をしています。自国文化の優位性、他国文化への劣等感を持たないように、それぞれの国や文化への尊敬を促していきましょう。

②いじめと偏見

子ども達は、肌の色、肥満、メガネ、車椅子等の身障者、文化の違いと様々な相違があります。もし、いじめや偏見についての言動があった場合は、真っ直ぐその問題に取り組めるように自律を促していきましょう。学校で問題に直接取り組む態度を奨励していきます。もしそのような子どもの言動があれば、偏見や先入観に対して気づかせ、自己中心から相手の立場にたって考えられる批判的思考を促していきましょう。

③特殊教育

特殊教育の子どもと同じクラスで学んでいくことも大切です。例えば車椅子やダウン症といった子どもがいれば、自然と手助けすることを学びますし、子ども同士で思いやり（共感）の心を育むことを促すからです。



保育実践を要約すると、まずは子どもの個性に対して自信を持たせる。そして、前向きな自己認識を持たせていきます。それは自分自身・家族・国の文化などです。

次に自己中心性から離れ、相手の立場にたって考える思いやり（共感）を持てるよう努力していきます。

そして、いじめや偏見に子どもたちで気づき、批判的思考を奨励していきます。上記によっていじめや偏見に対して、真っ直ぐに直視して自己主張できる能力を育むことになります。さて、私たち保育士、保護者、周囲の大人の行動は、子どもの模倣する原版となります。叫びながら怒る行動をすれば、子どもも叫びながら怒るようになります。子どもたちの模範となって、思いやりの行動を促して自律心を育ててまいりましょう。

第21回春季 ピアジェ研修会ぺたぺたシールあそび教材の実践発表



日本ピアジェ会

研究員 大石 富士子

各園のぺたぺたシールあそび教材の実践発表は日々の保育の中で研究を重ねていただき、実際の保育に役立つ豊富な内容で、今回も大変勉強になりました。

ぺたぺた教材の指導は、それぞれの単元のねらいや目標に連続性があり、日常の生活にすべつつながっており日頃の保育の中で、ぺたぺた教材の目標、ねらいを常に意識した声かけと環境が大切だと改めて感じました。

前操作期の成長期に、遊びを通して子ども自らが積極的に取り組み、環境に働きかけ、自分で考えて行動していける様に導いていく事が大切であり、また、他人の視点から考えたり、理解していける「思いやりの心」も育てていきたいと思います。

発表して下さった4園の先生方の熱心な教材研究や子どもの「あるべき姿」を日々研究されている様子にたくさんの刺激を頂きました。

ご多忙の中、発表にご協力頂きました各園の園長先生はじめ先生方、本当にありがとうございました。今後ご協力を宜しくお願い申し上げます。



師勝はなの樹幼稚園（愛知県） 発表者：橋爪 友希乃・田中 友理恵

年少編 : 単元⑦おやすみくまさん

目標 : みかけの大小関係

ねらい : 大小の比較を通して、対応するものとのかわりについて考える



導入①では、登場した2つのペープサートを見て、気付いた事を話し合い、大きさの違いを発見しました。2つのお弁当箱を見て、何が違うかを話し合った後、出てきたおかず（おにぎり・エビフライ・たまご焼き・タコウィンナー）にも大きい、小さいがある事に気付きました。お弁当箱の大、小に合わせておかずを入れ、操作後どのように入れたかを言葉で発表し、大小関係を考えて操作した事を確認しました。子どもの興味をひきつけるとても大きな立体的な教材で比較しながら、大小関係に気付けるよう導いておられました。

導入②では、四季について話し合い、今が夏である事に気付き、夏の水遊びに必要な物を話し合いました。登場した女の子の大きさの違いに気付き、浮き輪・麦わら帽子の大きさも考えて対応しました。大きいものには大きいもの、小さいものには小さいものを対応した後、何故その様にしたのかを発表し、関係性に気付きました。他の季節についても同様に考え、日本の四季の素晴らしさについても話し合いました。

発表では、リトミックで身体表現をする中で、ピアノの音に合わせて自分なりの表現を楽しみながら、大小の関係を感じており、とても良い表情で活動に参加していました。

遊々こども園（岐阜県） 発表者：兼松 梨恵・炭竈 ゆか

年少編：単元③ たりないものなあに？

目標：不足を補う

ねらい：絵を見て、色々な物を発見し、それぞれの足りない物に気づく。足りない物を補う操作を通して部分と全体とのつながりを理解する



「あつくん」が登場し、気付いた事を発表する中で、靴をはいていない事に気付きました。何が足りないかに気付く声かけをし、どうしてこうなったかを、言葉で伝えられる様に導いていました。また、靴をはかなかつたらどうなるかを考え、足りないものを補充しなかつたら、どうなるかを話し合いました。

「ちょうちょう」「三輪車」「車」「水道の蛇口」「家」についても話し合い、足りないものに気付いた後、何を補ったかを言葉で関係づけながら発表できる様に導いていました。部分を補う事で、全体がどの様になったかを筋道をたてながら振り返りができる様に進めていました。

また、1・2歳児の活動で、ストローおとし、かたはめパズル、絵合わせパズル・シューティングあそび等も紹介して頂きました。指先を使った活動を体験して行く中で、濃を活性させ、うまくいかなかった事も、試行錯誤を重ねながら、子ども自らが気付いていく大切さを学ばせて頂きました。様々なやりとりの中で、語弊を増やしていき、相手の思いに気付いたりという、心の成長についても、深く考え研究されている様子が良く伝わる発表となりました。

東山東幼稚園（和歌山県） 発表者：篠原 佳美

年中編 : 単元③ ねずみさんのぼうけん

目標 : 1対1対応による数の多さを比べ（同価と差異）

ねらい : 数の多い、少ない、同じを1対1対応によって確かめる



導入①では、こずもすレンジャーと、色々な物（ヘルメット、バイク、ロープ、トンカチ）の数を、どちらの数が多いか少ないか、同じかどうかを確かめました。まず直観で判断し、その理由を聞いた後、どうすれば数を比べられるか、数えずに比べる方法を発見しました。1対1対応をし、数が多いか少ないか同じかを発表した後、（＝・>・<）の記号を用いて、整理シートで確認しました。その都度、「どうしてそう思ったの？」という言葉がけをして、子どもなりの自由な発見をひき出しておられ、子どもの予測と違った時にも「何故？」と問いかけ、子ども自信が考えるきっかけを作っておられました。

導入②では、なすときゅうりの数も、並べ方を変えて、直観判断をしてから、1対1対応をし、比べていきました。見かけだけを見て、直観的判断で数の多い、少ない同じかどうかをとらえる為に同じ数でも並べ変えたり、形を変えたりしながら、興味を持って数を比較していける様に工夫しながら指導されていました。

応用では、ポッポちゃんファームの野菜を実際に収穫し、子ども自身が1対1対応する並べ方や方法も考えて、数比べしていました。次々と活動する中で、「大好きな事ばかりや」という声上がり、興味津々に楽しく取り組んでいる様子が伝わりました。

鴻池学園幼稚園（大阪） 発表者：河村 こゆき・中村 優

年中編 : 単元① どうぶつむら

目標 : 内と外の区別

ねらい : 物を入れたり出したりしながら、内と外の区別をすることにより、
～の中、～の外という言葉とその意味を理解する



「おむすびころりん」の世界に行ってみようという設定で絵本とは異なったストーリーを楽しむ中で、話しの中に出てくる様々な内と外の違いに気付ける様に導いていました。

- ・おじいさんのおむすびをお弁当箱の外から中に入れる
- ・魚つりをして、釣った魚を池の中から外に出てきた事に気付く
- ・また魚を水の中に戻す
- ・おむすびが土の中にある
- ・穴の中にもぐらがいる
- ・おじさんが穴の中に入る、穴の外に出る
- ・ねずみにもらった宝箱の中から小判が出てくる

ストーリー性のある進め方の中で、内と外の区別を行い、ひとつひとつ「～の中、～の外」という言語発表をしながら、内と外を考えていく楽しい保育を紹介して下さいました。

応用では、二重・三重・四重に描かれた円を用いて数の理解と同様にそれぞれの学年で理解度が異なり、年少・年中・年長の発達段階がよくわかる興味深い結果を発表して下さいました。

「おいしい絵本」

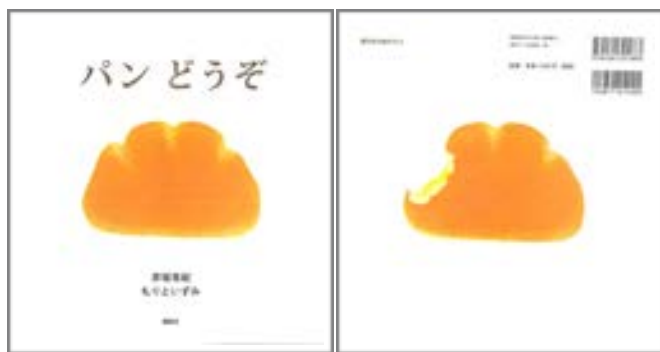
文学紀行No.35

児童文学研究家 石川 晴子

2018年、平成最後の夏は天変地異と異常気象で歴史に残るのでしょうか？それとも、こんな天気が普通になって、あの時からこうなったと言われるようになるのでしょうか？短い梅雨に続いて大きな地震、その後の豪雨と河川の氾濫、35度から40度という灼熱の日々、そして前代未聞の台風、またもや大きな地震、またまた台風、そのどれもがこれまでの常識を超えるスケールの大きさでした。大きな被害が出て、長く辛い夏になりました。影響が今も続いているので、気温が下がっても、なかなか思い出の夏という気分にはなれません。

そんな夏の盛りの8月のなかば、一泊だけでしたが札幌まで行ってきました。さすがに北海道！夜の藻岩山、山上は17.8度で驚いたことにダウンベストを着た人もいました。帰りの空港では、お土産としてチョコレートなどと並んで、ジャガイモやトウモロコシが売られていました。ちなみに関西だと、夏は本格的なチョコレートはあまり売れていません。暑さに溶けてしまうからです。どんなに長くて暑い夏であっても、やがて季節はめぐり、実りの秋がやってきます。おいしいものが食べられる季節です。というわけで、今回は食べ物をテーマにした絵本を取り上げることにしましょう。

食べ物は生きていくのに欠かせない大切なものです。絵本のテーマとしても主要なものの一つです。実に多くの絵本が作られています。けれども選ぶのは意外に難しいようです。食欲をそそるようなおいしい絵本を描くのはたやすくありません。まずは、おいしい絵本を目安に選びたいと思います。「ひとはパンのみにて生きるものにあらず」といわれます。身体だけでなく心にも養分が必要だといっていることばです。絵に描いたパンは空腹を満たしてはくれませんが、心になにか、あたたかな思いが満ちてくるのを感じることができます。



「パンどうぞ」という絵本にはパンしか描いてありません。パンを焼く人も食べる人も出てきません。表紙の真ん中に存在感を持って描かれているのは、クリームパンです。本をひっくりかえすとひと口かじったので、

中に入れた黄色いクリームがとろりと流れ出そうと出かかっています。（コピーだとクリーム色があまり見えないのが残念です）

この絵本の構成は、左側のページに「あんパンどうぞ」という文字が並び、右側においしそうなあんパンがひとつ。次をめくると「ぱくっ」という文字。右側にぱくっとかじった後のあんパンの絵という風に次々と新しいパンとかじったところが出てきます。外側から見たパンとかじったために中身が見えているパンの絵というように展開しています。ロールパン、ジャムパン、カレーパン、最後は二つに切った丸パンにレタス、チーズ、薄切りにしたトマト、それにハンバーグをはさんでハンバーガー。もっとあるよ！という人のためには、おまけのページにフランスパン、メロンパンなどがずらりと並んでいます。

小さい人たちは、「あんパンどうぞ」と大人が読むと絵の方に手を伸ばして「ぱくっ」という声を聞くと、パンを口に入れる動作をします。時には、本を読んでもくれる人にも「どうぞ」というように手を差し出す子どももいます。小さいひとと一緒に絵本を読む楽しみはこういう事にもあります。

この絵本のパンは、ふっくらとし、キツネ色の皮はパリッと焼け、なかにはほくほく口に入れると、とろけるようです。かまどから出したばかりの焼きたてに見えます。これは木版画による効果だろうと思います。

木版画を作るには、まず木の板に形や線を掘ります。この絵本の場合は、輪郭線を描いていないので、形だけを残し後は形が浮き出すように削り取ります。次に浮き彫りされた形の上に絵の具を塗ります。その上に絵の具を適度に吸いこむ紙をのせて、バランという道具で紙に色がのるように、しっかりこすります。

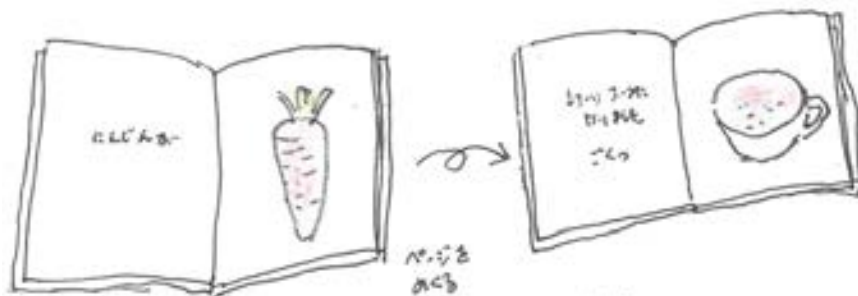
色の数だけ版を彫って、先ほどの紙をのせて絵を仕上げていきます。形や色がずれないように、版の隅に見当とよばれる小さな部品をつけておき、これに合わせて紙を置きます。ここから「見当をつける」とか「見当はずれ」という言い方が出てきたのではないのでしょうか。絵の具の塗り方や紙のこすり方である種の効果を出すこともできます。



同じ木版の手法を使って数冊の絵本が作られています。テーマはどれも食べ物です。「スープになりました」はニンジンやトマト、ジャガイモやトウモロコシと、それらから作ったスープを対比させた絵本です。表紙にも選ばれたトマトは真っ赤に熟した料理用の

トマトです。裏表紙は白いカップに入ったトマトスープの絵です。熱々のスープだけでなく、ガラスの器に入れて冷やしたグリーンスープもあります。最後に出てくるのは、トウモロコシで作った「とろっとろっ」のスープで、フランスパンをひたして食べます。すっかりパンでぬぐってコップは真っ白になります。「ごちそうさま」と言ってスープも食べ終わり、本も読み終わります。

ところでパンの絵本では、パンには外から見たところとかじって食べてみてわかった中身と二つの違いが描かれています。中身は外から見ただけではわかりません。外から見ただけではわからないものが内に隠されていることがあるのです。



ほかの絵本は 斜めに線が描いてありますが、
みずみずしい 人参の絵と じわじわとした 人参スープの絵です。
下手な絵に 気づいてしまいました。 ごめんねさ。

またスープの本では、トマトは切ったり煮たり水を加えたりミルクを入れたりすると見かけも味も変わってしまいます。ものには異なった相がある事が自然に認識されるようになっていきます。丸いトマトからトマトスープに変容するプロセスはこの本では描かれていません。食べる事と同じく料理も子どもの好奇心を刺激してやみません。自分でやりたくてたまらないようです。



「しろくまちゃんのほっとけーき」は子どもの気持ちを受け止めてくれる絵本です。本の通りにお母さんなどの助けを借りてホットケーキを焼いている幸運な子どもも少なくないようです。ここにあげた絵本は目の不自由なお母さんが我が子に絵本を読んでやりたいという要望に応じて作られた点字の絵本です。

さて、トマトやトウモロコシはどこで、どのようにして育てられ、収穫されるのかは都会で暮らしていると、目にする機会はありません。



南フランスに引っ越した女の子ソフィーが庭にある果物の木から色々な果物を取り入れるのを描いたのが「ソフィーのくだものばたけ」です。クラスの子どもたちが果物のことを調べて作ったレポートを

教室の壁に貼って、家族を招いて見てもらう場面はおもしろいと思いました。子どもたちは果物のジュースやケーキで家族をおもてなしします。



もう1冊「ジャムつきパンとフランシス」という絵本も紹介したいと思います。偏食は子どもにとって大きな問題です。アナグマの女の子フランシスは、ある時からパンとジャムばかり食べるようになります。お母さんとフランシスはどうやってなんでも食べられるようになって、どんなに良かったかが伝わってきます。フランシスが学校で食べるお弁当の素敵なお弁当のこと！私はいつかこんな風なお弁当を作ろうと思っています。ぜひご自分で読んで

どんなお弁当か見てください。

どれもりんご🍏!?



りんご

でも、何で、どうして、りんごだと思うのか? 覚えておくれは不思議なようば。
このうちのどれを見ても「りんご」と思うから、絵本は成り立つのである。

今回とりあげた絵本

- | | | |
|------------------|-----------------------------------|------|
| 1.パンどうぞ | 彦坂有紀—もりもといずみ | 講談社 |
| 2.スープになりました | 彦坂有紀—もりもといずみ | 講談社 |
| 3.しろくまちゃんのほっとけーき | わかやまけん | こぐま社 |
| 4.ソフィーのくだものばたけ | ゲルダミュラー作
ふしみみさお 訳 | BL出版 |
| 5.ジャムつきパンとフランシス | ラッセル・ホーバン作
リリアン・ホーバン絵
松岡享子訳 | 好学社 |



ピアジェ研究所

学校法人 鴻池学園第3幼稚園敷地内

〒573-0104
大阪府枚方市長尾播磨谷1-4051

Tel : 072(855)3777
Fax: 072(855)3779

Copyright(c) 日本ピアジェ会.,Ltd. All rights reserved.